

あんごえ
安居会 ご案内 瀧迫山 徳泉寺

合掌 じめじめとした暑さが日ごとに増しています。いかがお過ごしでしょうか。
本年も安居会法座をつとめます。ぜひ、お参りくださいませ。

当たり前にしていた日常が問い返される、今回のコロナ禍です。これまでも、東日本大震災をはじめとした、「想定外」によって、平穏な日常が当たり前ではないことを知ってきたつもりでしたが、またしても「想定外」です。しかも今回は長期戦、いつまで続くか不明です。

つまり、この世界はそもそも、人間の思いの及ばない想定外だらけの場所なのでしょう。「平穏な日常が続くはず」という想定は、幻想なのでしょう。いま、私たちが、ただコロナが収まることのみを希求し、ただ「平穏な日常」の回復のみを求めるならば、また新たな「想定外」の折に、再びあたふたするしかないでしょう。いま尋ねていくべきは、想定外のこの世界においても崩れることがない立脚地のはずです。

和讃に、「畢竟依（ひつきょうえ）を帰命せよ」とあります。畢竟依とは究極の拠り所という意味です。誰もが帰命すべき畢竟依があり、それを私たちは聞かせていただけるご縁にあること、これ以上の有難いことはありません。

【二〇二〇年 徳泉寺 安居会】

《講師 当山住職・若院》

七月十五日（水）	午前 九時半～十二時（お齋）	午後 一時半～四時
十六日（木）	午前 九時半～十二時（お齋）	午後 一時半～四時

様